

血液透析(HD)患者の認知症に与える因子について—MMSEによる縦断研究から—

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香 中村麻美 白井美千代 林田征俊 丸山祐子 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司
船越 哲

【目的】

HDにおいて認知症の有病率は同年齢の健常人と比較して2倍以上との報告もあり、今回当院HD患者の認知症に与える因子について検討した。

【方法】

当院のHD患者のうち、65歳以上で認知機能検査(mini-mental state examination;MMSE)の結果が2016年3月から2018年9月まで追跡し得た87名を対象とした。正常(1群)53人、軽度認知症の疑い(2群)21人、どちらかという認知症の疑いが強い(3群)13人の3群に分類について検査データを比較した。

【結果】

1群・3群においてMMSEの点数が有意に低下し、UIBC、ChE、アミラーゼ、尿酸、K、Cl、血清P、Hbが有意に低下していた。1群・2群において β 2MGは有意に上昇し、GNRIは有意に低下していた。

【結論】

認知機能低下には栄養状態が関与している事が示唆され、 β 2MGの上昇も何らかの関連があるのかもしれない。